

的に支援するための役割。授業の中で生徒たちが考えたプロジェクトを、放課後や土・日曜日に、この施設を使って地域の方々と一緒に進めている。2つ目は放課後の学習支援。ふたば未来学園の生徒の多くは、避難を経験しており、中学時の学習が不十分だった子どもたちもいる。大学生のインターン生を常駐させながら、学習支援を行っている。3つ目は、「ナナメの関係」という形で、生徒たちが、自らの未来を描くためのお手伝いをしている。生徒たちは、それぞれが福島への熱い思いを持って、ふたば未来学園に入学している。そんな子どもたちが、地域の大人や大学生との交流を通して、未来に対して思いを馳せることができるような時間を作ってあげたいと思っている。

なお、来年度から、この施設の機能は新校舎に移ることとなっている。

【教育委員】

江川先生の「児童生徒への学習支援」については、素晴らしい取組なので、是非、県内の各地域で進めてほしいと思う。

【発表者】

最初は、地域の方々から、「子どもたちの学力の実態が分からない」などの声があり課題も見受けられたが、子どもたちと勉強以外のことも含めて交流を深めていく中で、最近は「とても楽しい」と言っていることが、大変うれしい。これからも是非、続けていきたいと思う。

【教育委員】

遠藤先生の発表の中で、教科部会を実施しているというお話があったが、その中で、先生方はどのようなことに困っているのか、悩みを持っているのか伺いたい。

【発表者】

ベテランから若い先生まで、それぞれ困っていることは違うようだが、若い先生からは「授業で説明し過ぎてしまう。上手に子どもたちの考えを引き出すにはどうしたらよいか」という悩みがあった。それに対して、ベテランの先生方が、「問題を解く時に、先生が説明するのではなく、子どもたちに説明させると良い」や「説明のさせ方もこんなふうにすると良い」など、具体的にアドバイスをしている。このように、授業で困っていることを解決できる手立てをお互いに教え合う良い機会となっており、数学だけではなく、他の教科でも取り組んでいければと思っている。

【教育委員】

今ほどの話のように、アクティブラーニングの手法を取り入れながら、先生と生徒が、双方向でキャッチボールができるような授業が一番望ましいと感じた。引き続き、チーム力の最大化を目指して、スキルアップに努力していただきたいと思う。

江川先生の発表に関して、ネグレクトなどは表面に出にくい問題だと思うが、こうした問題を解決するためにも、地域との連携は非常に重要であり、教育の大きなテーマであると思う。中でも、ジュニアゲートボールなどは、田舎だからこそ出来る取組であり、都会では中々こういう発想は出ない。地域の特色、カラーをいかし

ながら、地域の文化を伝えていくということは、子どもの教育にとって非常に重要である。是非、地域との連携を引き続き進めてほしい。

長谷川さんのふたば未来学園の発表については、PBL教育（問題発見解決型学習）の実践、このことに尽きると思う。40から50ものマイプロジェクトが進行しているということだが、こうしたふたば未来学園で得られる経験、財産を点としてではなく、是非、福島県全体で共有出来るような、仕組みが出来ればすばらしいと思う。

【教育委員】

学びのスタンダードに基づく授業や、「タテ持ち」の教科指導の実践などに取り組みられて、確実に学力が向上してきていると思う。そうした中、先日の全国学力・学習状況調査では、南会津地域の数学が全国平均に比べて低いという結果が出たが、同じ地域でも小学生までは全国平均を上回っている。学年が進むにつれて、学力が落ちることのないよう、また、地域間の格差が出ないように、「タテ持ち」の教科指導や地域との連携、PDCAサイクルの活用などを進めて、福島県全体でレベルアップ出来るような仕組みを作っていただきたい。

また、西会津町の地域学校協働活動については、その地域にある学校だからこそ出来る活動に積極的に取り組まれており、成功した例だと思う。こうした活動を是非、県内に広げていただきたい。

ふたば未来学園については、先生と生徒だけの関係ではなく、NPO法人の方が協力して、新たな関係を築いており、とてもすばらしい取組だと思う。常に40から50のプロジェクトが進行しているということだが、支援員の数は足りているのか、短期・長期で様々なプロジェクトがあると思うが、立ち消えになってしまうようなプロジェクトはあったのか、お伺いしたい。

【発表者】

プロジェクトを進めていく中で、生徒たちだけで進めていくと、たくさんの壁にぶつかる。そうした時に、私たちは「伴走者」という言葉を使っているが、そのプロジェクトを生徒たちと一緒に進めていく大人の存在が非常に重要だと考えている。その伴走者を誰が担うのかということを常に学校側と議論しながら進めているが、一番はやはり先生たち。授業の中でプロジェクトが生まれた時に、先生が伴走する形で生み出され、進んでいくことが多い。「高校生と考える廃炉座談会」は大熊町出身の生徒が発案したものだが、これも正に先生が伴走する形で生徒をサポートして実現したプロジェクトである。我々NPOのスタッフや大学生が伴走者となることもあるが、「田んぼアート」は、地域の方々が伴走者となったプロジェクトである。先ほど、地域学校協働活動の話があったが、こうした地域のがんばっている大人たちが学校の子どもたちのサポートをしていくというのは非常に重要な機会だと思う。「双葉みらいラボ」という放課後の居場所をハブ機能として、地域の方々を呼び込み、プロジェクトを支援していただくことを通して、応援してくれる方を徐々に増やしているところ。ただ、正直足りてないというのが現状であり、この仕組みづくりをどのようにしていくかというのを、先生たちと議論している。

また、立ち消えになるプロジェクトは基本的にはない、立ち消えになる前にどん

どん内容が変わっていく。例えば、「FMふたばプロジェクト」は、ある生徒がファーマーズマーケットをやりたいと言い出したところからスタートしたのだが、農家の方から「その前に農業を体験してみたらどうか」というように、フィードバックを受けて進んでいった。最初は、農業の基礎を学ぶことから始まり、最終的にはファーマーズマーケットを開く。このように、プロジェクトが立ち消えないように、火を徐々に徐々に大きくしていけるような取組を進めている。

【教育委員】

遠藤先生のお話にあった教員同士の学び合いについて、どのような意見を交換して、実践されているのかをお聞きしたい。

また、長谷川さんのふたば未来学園の取組について、地域の方々の応援が必要であるが、人数が足りていないというお話があった。実際に私の知人も声を掛けられ応援することになったようだが、この他にも、応援したいという方がいると思うので、是非、がんばっていただきたい。

江川先生の地域学校協働活動について、私の孫が会津の学校に通っていた時にボランティア活動していたのだが、その時に地域の人たちにいろんなことを教えてもらって、とても良い経験になったと聞いている。これからも地域との交流を続けていってほしい。

【発表者】

授業スタンダードの中にコーディネートという言葉が出てくる。ある先生の授業を見た際にとっても参考になったことだが、普通なら先生が説明して終わってしまうようなところで、あえて生徒に説明させて、それに対して、他の生徒が意見を述べる、さらに、別の生徒が反対意見を言うというように、子どもたちの意見、考えが積み重なっていく授業を見せてもらったことがあった。一緒に授業を参観していた先生は、「生徒への働き掛けがすばらしく、自分でも実践したい」という感想を持ち、それを先生方の研修の場で発表されたことがあった。今後も、授業をしっかりとコーディネートし、生徒たちの意見の積み重ねの場をたくさん作ることもできるよう取り組んでいきたい。

【教育委員】

川俣中学校の遠藤先生の授業スタンダードの使い方や、教員間の学び合いについては、私も以前から思っていた取組を実践されていて、とても素晴らしいと思った。

また、「タテ持ち」、「ヨコ持ち」の違い、メリット、デメリットなどがあれば教えていただきたい。

【発表者】

私がこれまで経験した学校のほとんどが、また、県内の学校の多くが「ヨコ持ち」だと思う。今の学校では「タテ持ち」に取り組んでいるが、系統性を重視できるというのが強みだと思う。同じ時期に、各学年で同じ領域を勉強することが多い。4月は各学年で計算の領域を勉強し、方程式も1年生の一次方程式、2年生の連立方程式、3年生の二次方程式など、同じ時期に行う。これにより、機能的な見方、考

え方を生徒たちに気付かせることが出来る。このように、「ヨコ持ち」はどうしても自分の学年だけを見てしまう傾向が強い一方で、「タテ持ち」は系統性の強い指導が出来るというメリットがある。

また、1学年だけではなく、全学年の生徒と関わることで、学校全体で子どもたちの成長を見守ることが出来るというのも「タテ持ち」の良さだと思う。

【教育委員】

西会津町の地域教育について、西会津町は小学校、中学校、高校が1校ずつあり、町全体が「自分たちの学校だ」という意識が強く、とてもまとまりが良いと感じた。このようなすばらしい取組を様々な場面で発信していただき、他の自治体でも参考に出来るようにしていただきたい。

ふたば未来学園の取組について、現在、放課後の居場所として使用している施設がどのようになるのか心配していたが、新校舎に引き継がれると聞いて大変安心した。これからもこういった活動を是非続けてほしいと思う。

また、先日、ニューヨークの9.11家族会と一緒に、ふたば未来学園に訪問させていただいた際、来年のニューヨーク研修の話が出た。私としても出来る限りの協力をしていきたいと思うので、引き続き、こういった交流活動が実施できるよう積極的に取り組んでいただきたい。

【知事】

教育委員の皆さんの意見を踏まえて、教育長から感想を。

【教育長】

「頑張る学校応援プラン」は、5つの主要施策で構成されている。今回、遠藤先生、江川先生、長谷川さんから現場のお話を伺い、答えは必ず現場にあるということに改めて実感した。3名の皆さんからは、主要施策の関連の強い事項毎にお話を頂いたが、例えば、長谷川さんの「双葉みらいラボ」の話などは主要施策4だけではなく、全ての施策に関わっている。遠藤先生の「タテ持ち」の取組や、江川先生の地域との連携も同様に様々な施策に関連してくる。こうしたすばらしい取組をしっかりと横展開していきたいと考えているので、引き続き、よろしくお願ひしたい。

【知事】

今日の総合教育会議は、現場で取り組まれている3名の皆さんに入っていたおかげで、いつもの会議とはまた違った成果があったと感じている。発表いただいた中で思ったことは、3名の皆さんから教えてもらっている生徒たちには、やる気と笑顔があるということ。その根源はやはり自己肯定力、これはすごく大事な言葉だと思っていて、今の自分で良いんだ、これから成長していけるんだというポジティブな思いを、生徒、児童一人一人が持てるか、持てないかで成長の仕方が違ってくると思う。この自己肯定は、何か一つの型があって、その型にはまらなくてはダメということではなく、一人一人全員が違って良い。自分はダメだと思ってしまうのか、自分は出来る、特にここには自信があるという思いを持てるかで大きく差が出ると思う。先日の全国学力テストにおいても、自己肯定力が強い子どもはより

高い成績が取れるという話もあるようだ。また、社会人になっても、自己肯定力が高い方が活躍出来ると思っている。これからは是非、現場での気付きを大切にして、引き続き、すばらしい教育に力を尽くしていただければと思う。

＜ 福島ならではの特色ある教育について ＞

【知事】

議題2は、福島ならではの特色ある教育について。震災と原発事故から7年余が経過したが、この間、福島の子どもたちは、厳しく、困難な経験を大事な糧にしながら、様々な場面ですばらしい活躍を見せてくれている。

教育総務課長から、こうした取組状況を説明し、意見交換に移っていきたいと思う。それでは、説明をお願いします。

－教育総務課長から資料2-1、2-2に基づき説明後、以下のとおり、意見交換－

【教育委員】

たくさんの大学が福島県に来てくれることは非常にありがたいこと。これをきっかけに是非、大学との関係を強くして、今後は、大学側から、自分たちの予算を使ってでも研究をしたいというような方向性を目指していただきたいと思う。

GAPについては、各学校で、グローバルGAPやJ-GAPの取得に目標を持って取り組まれているようだが、今後は、福島県らしさという切り口が大事になってくると思う。福島イノベーション・コースト構想の関連では、工業との連携が考えられる。GAPに、AIを始めとする科学技術を活用するなど、福島県らしい取組を期待している。

【教育委員】

これらに関しては、私自身、特に力を入れていることなので、実現してきていることを大変うれしく思う。GAPに関して、子どもたちは、取得に関わる中で費用の関係など、大変なことも含めていろいろと学んでいると思う。子どもたちが大人になって農業に携わる、また、福島の農業を再生させていくためには、県としてしっかり支援していくことも必要だと思う。

また、大学と自治体との連携について、川俣町や田村市の取組に際し、アドバイスしていた経過があったので、実現してとてもうれしく思う。福島の子どもたちが、大学の生徒たちと交流することで、その大学に行きたいと思えることは大事。地元に残ることも良いことだが、自分たちの町のために支援してくれた大学に行って様々なことを学び、福島に持ち帰ってくる、そんな志を持った子どもたちを育ててほしいと思う。

先ほどの議題1に戻ってしまうが、教員の多忙化が問題となっている中、先生方はどのような工夫をしているのか伺いたい。

【発表者】

確かに忙しさはあるが、「みんなでがんばっていこう」、「こういうことを目指し

ていこう」と教員同士が子どもたちへの思いや目標を共有することで、多忙感がやりがいに変わってくると思う。そういう良い雰囲気職場をつくることに努めている。

【知事】

教育委員会として多忙化解消を図りながら、現場では上手にやりがいを高めていく。この両方が大事。

【教育委員】

農業高校の生徒には、GAPの取得に関わることも大事だが、農業経営管理等の知識や技術をしっかり身に付けてほしいと思う。また、これからの農業には農産物の6次化の取組が重要である。生産から加工、販売という一連の流れをきちんと知った上で、6次化を進めるためにGAPがなぜ必要なのかということも改めて学んでいく必要があると思う。

福島イノベーション・コースト構想における大学と自治体の連携の中で、農業分野の研究活動等が目立つ。こうした取組は是非、中通り、会津にも波及させ、横のつながりを強化できるように、取り組んでいただきたいと思う。

【教育委員】

私は、これまで企業のISO認証取得に関わってきた経験から、福島県の農業が国内、さらには、海外で競争していくためには、GAP取得を是非、積極的に進めていく必要があると考えている。

また、福島イノベーション・コースト構想については、いわき商工会議所としても力を入れており、私自身、東京大学先端科学技術センターといわき市の連携、福島高専における人材育成などに取り組んでいるところ。国家プロジェクトとして位置付けられた本構想がしっかりと具体化していくよう皆さんと共に協力していきたい。

【教育委員】

震災の時に生まれた子どもが、今年、小学一年生になった。当時は、とても大変な思いをした中学生や高校生もたくましく成長し、大学と連携・協力して前向きにがんばっている。

本当に辛く、困難な経験ではあったが、福島県だからこそその環境の中で、学んでいくことは大きな財産になる。これからも子どもたちをしっかりと応援していきたい。

【知事】

教育長から感想を。

【教育長】

GAPについては、この新たな取組を進めることによって、農業を担う高校生たちに、新たな農業経営の可能性を知ってもらいたい。先ほど知事から自己肯定感の

お話があったが、正に自信を持って農業が出来る、そして将来、儲かる農業を実現出来るようにしていきたいと思う。国やJAに購入してもらうのではなく、海外への輸出を目指すなど、自信を持って農業に取り組んでいけるよう、しっかりと勉強してほしい。

高橋先生からお話があった福島県らしさという点では、今、会津農林高校の生徒たちが、伝統野菜の小菊かぼちゃの栽培に取り組んでいるが、農業には特色を出していくことも大事だと思う。こうした取組をきっかけにしながら、若い人たちには農業に自信を持って取り組んでほしいし、福島県の農業全体を儲かる農業にしていきたいと思う。

福島イノベーション・コースト構想については、復興・創生期間後まで続いていく、正に福島県の復興に不可欠な取組。国家プロジェクトとしても位置付けられた本構想には、これまで以上に知事部局とも連携を密にして、取り組んでいるところ。現場の高等学校などでも、具体の取組が進んでいるが、今度は、義務教育の分野にも展開を広げて、子どもの頃から本構想に興味・関心が持てるようにしていきたい。教員の多忙化解消との兼ね合いは難しいが、現場の先生方とも相談しながら、進めていきたい。

【知事】

こうした福島ならではの取組を是非、継続して進めていきたいと思う。発表者のお話を伺って改めて感じたことは、現場において、一つ一つのストーリーがあるということ。生徒が関わる、先生が関わるストーリーを、サクセスストーリーに作り上げていく。一つ一つは小さなサクセスストーリーかもしれないが、それが揃い、積み重なっていくと、アジサイのようにとても素敵な花になる。また、それらをお互いに共有し合うことで、自分もそのサクセスストーリーを作ろう、関わろう、教えよう、そういう気持ちになれると思う。子どもたち一人一人に自分は出来るんだ、やれば出来る、そういう肯定感を持てるような、福島ならではの教育に是非みんなで行ってほしいと思う。

< 県立高等学校改革基本計画について >

【知事】

次の報告事項に入る。県立高等学校改革基本計画について、県立高校改革室長から報告をお願いします。

－ 県立高校改革室長から資料3について説明 －

【知事】

それでは、この件について、御意見等あればお願いします。

【教育長】

この計画については、様々な機会を捉えて、理解の促進を図っているところである。今後、具体の取組が進んでいくこととなるが、引き続き、丁寧な説明に務めな

<p>(3) 閉会</p>	<p>がら、取組を進めていきたいと思う。</p> <p>【知事】</p> <p>この取組は、県民、関係者の方々の関心も高く、大切な問題である。教育長の言葉にもあったが、キーワードは「丁寧」。やはり丁寧に説明を継続していく中で一定の方向性を作っていくことが大事。今後とも、総合教育会議の場で皆さんの意見も伺いながら進めていければと思う。</p> <p>今日は、発表者の皆さんのお話を伺いながら、意見交換を行えたことで、大変意義のある会議となった。こうした取組により、会議がより活性化する場になると思うので、折を見て、また実施できたらと思う。</p> <p>【知事】</p> <p>以上で、本年度第1回目の総合教育会議を閉じる。</p>
---------------	--